No.

Date

第19回・銀座書斎入居ビル清掃活動 リポート

《 2019年 9月度 》

リポート提出日： 2019年10月7日

英語道弟子課程・弟子、 S. M.

KOKUYO LOOSE-LEAF ノ-816AT 7mm ruled×35 lines

まず、はじめに、銀座書斎入居ビル清掃活動・月決め総合管理者として、銀座書斎入居ビル清掃活動についてリポートを書くという機会を賦与いただきましたこと、改めて、お礼を申し上げます。

リポートを書くにあたり、いろいろとふり返ったり、様々なことに改めて気付いたり、また、自分を見つめ直したりと、とてもよい機会となりました。

銀座書斎入居ビル清掃活動が始まったのは、2018年10月ですので、2019年9月で、ちょうど一年が経過したことになります。
ここでも、月日の流れの早さを感じます。

清掃活動は、私がまだ受講生だった昨年の9月に、他の弟子の方から「自分たちが学ぶ聖域を掃除したい」という希望を、先生が受け入れてくださり始まったものです。

開始当初は、月1回（毎月第2土曜日の10:25～）の当番制で、清掃場所も1階から6階までの階段のみでした。それを弟子の皆様が自発的に先生とご相談のうえ、担当月以外にも、土曜日や、年末年始、稽古前等に掃除もされるようになり、今年の4月には、H.K.さんが、先生へ清掃活動に関する請願書を提出してくださり、その回答として、先生からすべての弟子に対して、清掃活動の機会を大幅に増やしていただきました。
さらに、9月には、仕事の時間を考慮いただき、さらに時間を拡大していただいたほか、6階の階段スペースを弟子の学習活動の場として使うことを許可いただきました。
清掃場所についても、最初は、1階から6階の階段のみであったのが、翌月にはトイレが加わり、今月の3月には、銀座書斎内部とキッチンスペース、6月には奥の聖域までと、先生ご自身の時間を削って、先生の美意識に触れさせていただく場所と機会を増やしていただきました。

清掃活動自体も、掃き掃除と拭き掃除だけだったものが、先生、そして、弟子の皆さんのアイデア、気付きで、どんどんと広がりました。まずは清掃道具の設置、その後は、スリッパやトイレカバー、カーテン等の洗濯、1階入口の一輪挿しの美意識、清掃活動ノート・清掃場所の記録表（なくなりそうになったときの補充）、5階～6階の階段スペース・トイレの内装（敢えて内装と書かせていただきます。）も、季節毎のお花に、水盤のお花、トイレの一輪挿し（受講生の方のアイデア）、

一輪挿し用の手作りのコースター、先生による、清掃活動ノートや学習者のリポート閲覧用のラックの設置、手作りの白いクロス、照明のLEDへの交換、時計の交換、リポートやお手紙のデコレーションの大再構築、トイレの鏡、案内板……。
(すべては書ききれないほどのたくさんの工夫がなされました)

そして、担当月の9月には、書の裏打ちに、トイレの棚とウェットティッシュの設置……。
この1年で、銀座書肴入居ビルは、新しい命を吹き込まれたかのように美しくなり、そして、5階～6階の階段スペースは、まるでお部屋のようになりました。
まさに、皆でつくる学びの聖域です。

私自身は、まだまだ、雑で鈍感で、気付かない部分が多いですし(自分がいかに雑で、鈍感であるかに気付きました)、貢献度も低いです。
清掃活動に参加させていただいたのは、途中からですが、先生や皆さまから多くの気付き、アイデアを学ばせていただいています。
今、先生の弟子として、銀座書肴入居ビル清掃活動を行わせていただけていること、心から嬉しく思います。

以下、最近の自分の中の気付きとして、感じたことを、書かせていただきます。

《階段の汚れと自分》

私の清掃活動は、トイレ掃除から開始し、その後、6階から1段の階段を順番に拭いていくことが多いです。
ぞうきんは、下に行くにつれて、真っ黒になります。特に1階から3階は、拭いても拭いても汚れます。また、どんなにきれいにしたつもりでも、次の日には、また同じように黒くなります(日曜日と月曜日に連続で清掃してわかりました)。
そんな時、ふと、「ああ、この階段は自分だ」と思いました。
1階から3階は、1階のお店の方、銀座書肴の学習者、宅配の方、訪問者、様々な方が一番登り下りする場所です。そしてもちろん、土足です。
皆、故意に汚しているのではありません。私を含め、外で、日常生活の中で、靴に付いた色々な汚れや、小石や砂等を無意識のうちに、ビルの汚れとして持ち込んでいるのです。どんなに掃除しても、毎日汚れる、考えば、あたり前のことです。だから、きれいに保つには、毎日、付いた汚れを落とす必要があります。
また、デコボコのすき間や窓枠等にこびりついた汚れは、長年のうちに、

蓄積されこびりついた汚れです。これらをきれいにするには、
拭くだけでは足りず、より時間をかけて落とす必要があります。

これはまさに自分と同じです。どんなに自分をきれいにしたつもり
でも、毎日の日常生活、ローカル社会の中で、無意識のうちに、
ローカル性に毒されているのだと思います。
そして、長年生きてきた中で、自分の中にこびりついてしまった固定観念や
自我を簡単に取り除くことはできません。

だから毎日、心と体をきれいにする必要があるのです。
こびりついた汚れは、特別に取り除く必要があるのだと思います。

私は清掃活動で階段を一生懸命にきれいにしているつもりでしたが、
実は、磨かれていたのは自分そのものなのだと思いました。自らの汗を流し、
掃除をさせていただくことで、自分を磨き、先生の美意識に触れさせて
いただくことで自身の美意識を向上し、先生のつくりおされた神聖な
空気感の中で息をし、たまに、銀座書斎の中からきこえてくる神聖な
音楽に耳を傾けることで、心を洗われる、
銀座書斎入居ビル清掃活動は、第6等級の弟子、純粋存在者に
なるための通るべき道、必要なプロセスであり、
まさに、先生に導いていただいているのだと思いました。

現在、清掃活動を行っている弟子に対し、個々の必要性等を鑑み、
銀座書斎入居ビルの1階入口の鍵を賦与いただいています。
この鍵の意味、重みをしっかりと自分の命に刻み、
これからも、清掃活動を続けていきたいと思います。

《お隣のSちゃん》

私の最近の銀座書斎入居ビル清掃活動の楽しみの1つに、お隣のSちゃんが早朝から、お母さんと一緒に掃除をしている微笑ましい姿を見かけるというのがあります。
そして最近は、いろいろとおしゃべりもしてくれます。

きっかけは、ある木曜日の朝に（通常であれば、1階のお店が営業している第1、第3の木曜日に）、いつもどおり、清掃のために銀座書斎を訪れると、1階の入口が閉まっていたことです（後で臨時休業だったと知りました）。
どうしようもなく、入口付近で先生がいらっしゃるのを待っていたところ、お隣の方が、「生井先生のところですか？ もしよかったら、イスに座って待ってください」と、イスと待つための場所（お隣の玄関先）を提供してくださったことです。普通に考えると、見知らぬ人にそんなことはできません。
何とも言えない心温まる行動と言葉に感動するとともに、普段先生が、ご近所や地域ととてもよい関係を築いてこられていることを改めて実感しました。
私はイスをお返しするときに、とっさに職場に持って行くつもりで、たまたま持っていたお菓子を"Sちゃん"にと、お母さんに手渡しました。
もちろん、物でどうこうというものではないものの、そうせずにはいられなかったのです。

以来、朝に会う時には、ご挨拶とちょっとした会話をするようになりました。
そして、気がつけば、銀座書斎入居ビルの前まで含めて、きれいに掃除をしてくださっているのです。
これは、他の弟子の皆さんが、一生懸命に、ビルの外側も含めて清掃されているからだと思いました。
少しずつだけれど、いい事が起こっている、そんな風に、とても嬉しく感じた瞬間です。
そこからは、私も、少しだけですが、外側の清掃範囲を広げました。

外にはいろいろなものが落ちてます。街路樹の落ち葉は、自然のもので当然ですが、それ以外にも、タバコの吸いがら、レシート、食べ物の包みかみ、空き缶に、ペットボトル、使用済の湿布？に時にはガム……
私が週に1～2回、ゴミを拾ったところで、町全体がきれいになるわけでもなく、捨てる人の心が変わるものでもありません。
それでも、少しずつ、自分のできることから、小さなことから始める。

先生がおっしゃる小さなことからとは、まさに、そういうことではないかと思いました。
小さな"Sちゃん"が、眠い目をこすりながら、頑張って、毎朝、掃除をしています。
私も元気に頑張ろうと思います。

以上

KOKUYO LOOSE-LEAF ノ-816AT 7mm ruled×35 lines